

YOUは何しに

NISEKO ニセコへ？ 新雪谷

世界級リゾート地としてのニセコの現在と未来

日本の観光地の中でも、近年急速に世界的な注目を集めるようになったニセコ。特に「パウダースノー」と呼ばれる極上の雪質や、独自の「ニセコルール」で安全性に配慮された世界中から多くのスキーヤーやスノーボーダーを魅了した「バックカントリー」を誇る冬季のリゾート地としてその名を馳せています。そんなニセコの魅力に取り憑かれ、16年前に移住してきた倶知安町観光商工課担当、沼田尚也さんが「世界のニセコ」として成長を続けるこの地域について語ってくれました。



倶知安町観光商工課担当
沼田尚也さん



羊蹄山
(出典: 倶知安町観光概要2024)

ニセコアンヌプリ
出典: ニセコフリーパスポート協議会 (NISEKO UNITED)

ニセコの魅力とは?

ニセコエリアは、世界的に有名な「パウダースノー」、安全性に配慮された「バックカントリー」エリア、そして多彩な宿泊施設と飲食店が揃う、日本でも類を見ないリゾート地としての地位を確立しています。倶知安町・ニセコ町にまたがるニセコアンヌプリを中心に、4つのスキー場が展開されており、その周辺には温泉宿、コンドミニアム、コテージ、バックパッカー向けの宿泊施設など、訪れる人々の多様なニーズに応える施設が立ち並んでいます。

特に、ニセコはコンドミニアムが集積する地域としても知られ、国内外の富裕層にとっては別荘地としての人気が高まっています。さらに、多彩な飲食店では、世界各地の料理が楽しめるだけでなく、伝統的な農業地域としての地元の食材を使った美食も堪能できます。ニセコは、まさに「世界のニセコ」として、その魅力をさらに広げ続けています。

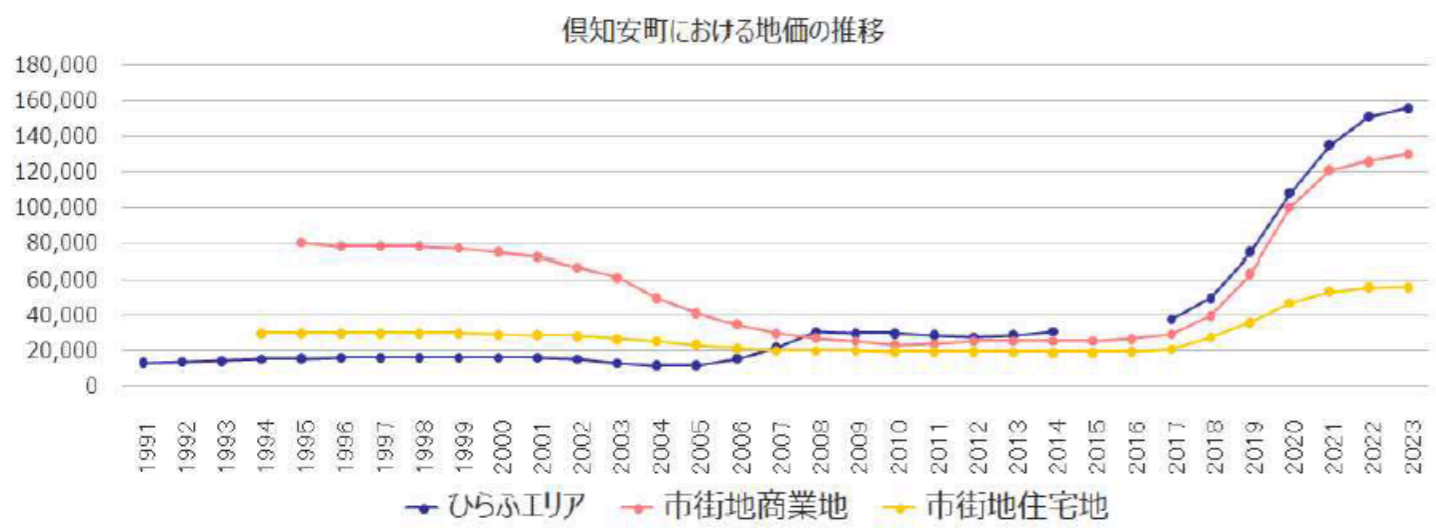


インバウンドブームとその影響

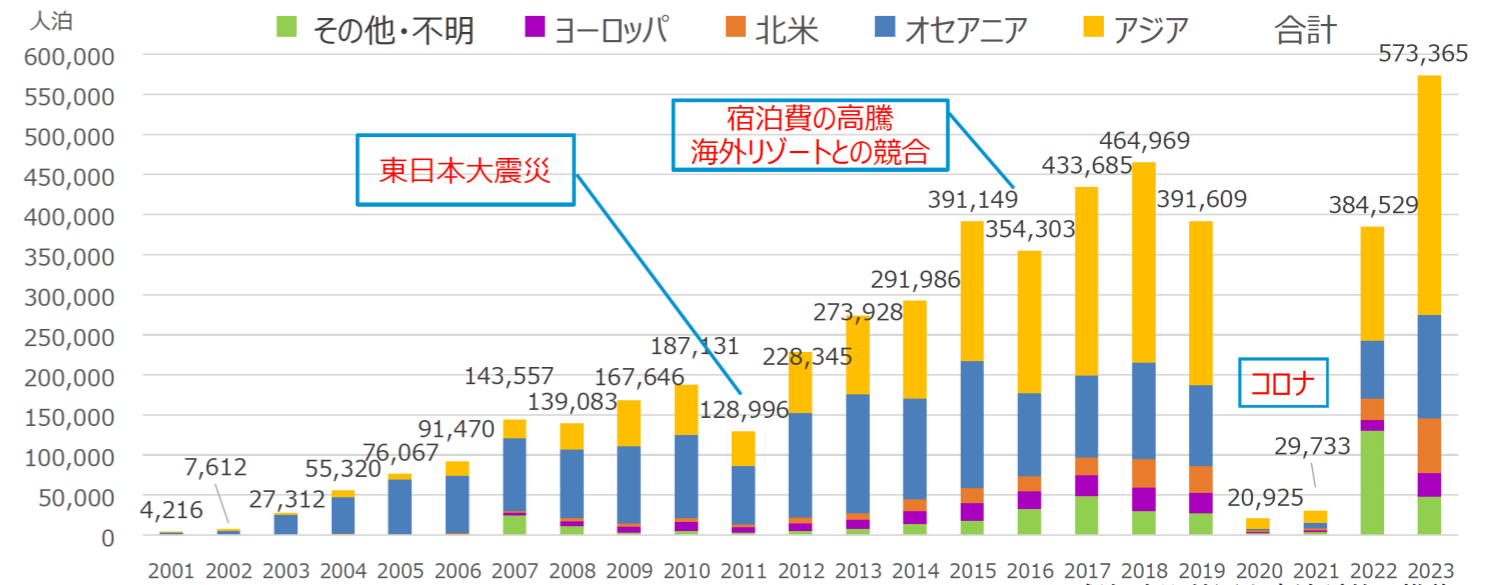
ニセコの名声が世界に広がったのは、2000年代からのことです。特に、オーストラリアからの観光客を中心に、口コミがきっかけで、多くのインバウンド観光客が訪れるようになりました。2010年代以降には、アジア系の観光客も大幅に増加しました。

沼田さんによると、ニセコエリアのインバウンド誘致の成功について、よく「役所が何を工夫しているのか」と尋ねられるそうですが、実際のところ、「自然発生的なもの」と考えるのが妥当だと語っています。「一番大きな要因は、やはり雪という貴重な資源でしょう。そして、オーストラリアからの観光客が最初に高評価を与えたこと、そちらとはちょうど逆季節、交通の整備や直行便の開通、さらには2000年代にアメリカで起こった同時多発テロによる観光客の動向の変化など、これらの背景が重なり合い、ニセコは自然の恵みと時代の勢いに乗って成長してきました。確かに、これは非常にユニークで、再現が難しい事例です。」

このようにして、ニセコは急成長を遂げ、日本国内でも一目置かれる観光地となりました。しかし、その急成長は、地元経済に大きな影響を与える一方で、地価や物価の上昇も招いています。



(出典: 倶知安町観光概要2024)



「現在のニセコの観光業が、観光客も投資側も両方がインバウンドに牽引されている」

沼田さんは、この急成長について「ニセコはリゾート地として、ようやく世界の背中が見えるようになった」と語ります。確かに、日本国内の他の観光地と比較しても、ニセコの高級宿泊施設の料金は異例の高さですが、それはニセコが世界級のリゾート地として認知されている証拠ともいえるでしょう。

また、沼田さんは「ニセコがこれからも成長を続けるためには、地元住民にもニセコを楽しんでもらう工夫が必要だ」と指摘しています。たとえば、スキーリゾートとの間で「ローカル割引」を導入するなど、地元の人々がニセコの魅力を享受できるような取り組みが検討されています。

さらに、倶知安町では、日本で初めて定率制の宿泊税を導入し、観光客から得た貴重な財源をインフラ整備や冬季のロードヒーティング、タクシー運転手をはじめとする人手不足の解消など、さまざまな事業に活用しています。これにより、観光客の体験をさらに向上させる良循環を目指しています。

ニセコはまだ投資に向いているのか？

バブル崩壊を経験した日本では、投資に対して慎重な姿勢が見られます。しかし、沼田さんは「ニセコにはまだ成長の余地がある」と強調しています。確かに、ニセコの地価はすでに高騰しており、過去のような急成長を期待するのは難しいかもしれませんが、これからは安定した成長期に移行するべきだと彼は述べています。

「私はこの16年間、ニセコで働いてきましたが、その間ずっと『バブル』という言葉を目にしてきました。むしろ『バブルとは何だろう』と感ずることもありました」と沼田さんは語ります。

「需要は確かに存在しています。今年の統計や昨シーズンのゲレンデの様子を見ると、観光客数はもはやコロナ前を上回っているでしょう」。また、「ニセコエリアは広大に見えるものの、需要に対して土地が不足しています。最近では中心地からかなり離れた地域にまで宿泊施設が建設され、渋滞などのオーバーツーリズムが課題となっています」と彼は述べています。「古い施設の建て直しや都市計画に基づいた土地開発など、日本の多くの地域で過疎化が進む中、ニセコの課題は少し贅沢なものとも言えるかもしれません」。

沼田さんはまた、過去のような急成長や急拡大は期待しにくいものの、ニセコエリアでは現在、海外から優秀な人材を引きつけるために幅広い求人が展開されていると指摘しています。特に観光業やホテル業の管理職といったポジションに注目し、それをきっかけに自立的な投資を考えることが、今の時期にはお勧めだと述べています。

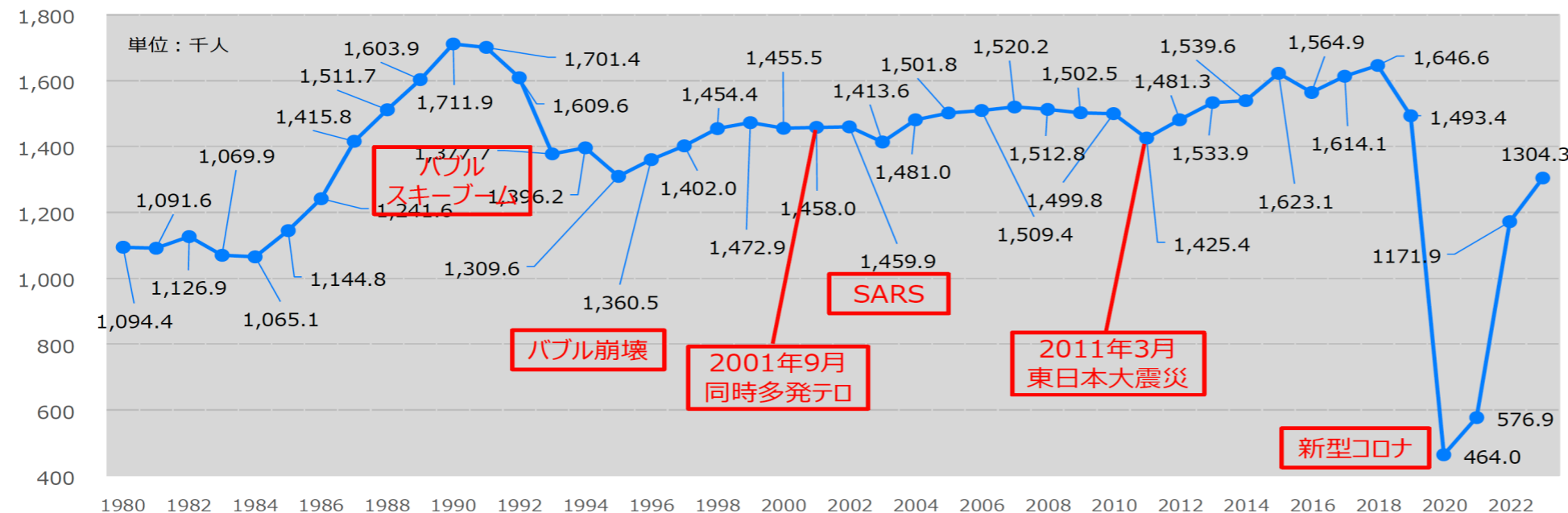


「A国ブランド・B国ファンディング・まだ物件ごとにそれぞれオーナー、ニセコエリアへの投資は今極めて多角的・グローバル的である」



ニセコで働きたい！

ニセコでは、シーズン労働者が多く、冬季には観光業、夏季には建設業での雇用が盛んです。特に、海外からのワーキングホリデーを活用した労働者が多く訪れ、ニセコでの労働体験を楽しんでいます。



※宿泊税の導入を契機に2020年度より統計手法を見直している

倶知安町観光客入込状況の推移 (出典：倶知安町観光概要2024)

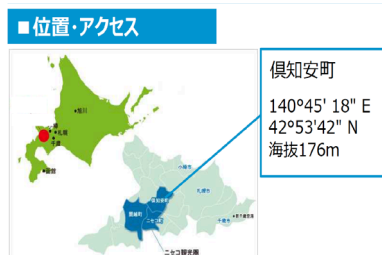
一方、ニセコの観光業界では、より高質なおもてなしを提供するために、通年で働くことができる人材も求められています。

現在、倶知安町では、外国人住民の割合が過去最大の17%に達しており、日本国内でも有数の多文化共生が進む地域となっています。沼田さんは「ニセコは日本有数の多文化共生推進地域として、その地位を確立している」と話し、このような地域で働くことは、異文化理解やグローバルな視点を養う絶好の機会であると強調しています。

ニセコでの生活：小さな世界都市

ニセコでの生活は、まさに「小さな世界都市」と表現されるにふさわしい環境です。倶知安町の外国人住民は過去最大の17%を占め、世界中からの観光客が集まり、日本語、英語、中国語など、多様な言語が飛び交う多元的な社会が形成されています。このような環境は、日本の伝統的な田舎社会とは異なり、多少ドライで都会的な雰囲気が漂っています。

さらに、ニセコエリアの大きな利点は、そのアクセスの良さです。札幌や新千歳国際空港へは2時間強でアクセスできるほか、北海道新幹線の開通や後志道の建設により、さらに便利になることが期待されています。



- ・札幌市 2時間 (電車・自家用車)
- ・新千歳空港 2時間30分 (自家用車・バス)
- ・函館市 3時間 (自家用車)

しかし、ニセコでの生活には課題もあります。特に、豪雪地帯であるニセコでは、冬季の除雪作業や雪道の運転が一つの大きな挑戦となります。また、移住者にとっては住宅の確保が課題であり、そのなか外資系企業が提供する社員寮などが人気です。沼田さんは「ニセコの大きな課題は住宅不足であり、それを解決するための宅地・住宅の供給についての政策が必要になっている」と話しています。



また、外国人がニセコを楽しむためには、日本のルールやマナーを理解することも重要です。